

## 奥州市の小学生・中学生の生活実態のアンケート調査概要

### 1 調査目的

令和6年度、市内小中学生を対象に実施した『奥州市こどもの権利に関するアンケート調査』において、「毎日の生活や学校の予定よりも優先して家族の身の回りのお世話をしていることがある」と答えた児童生徒は、小学生19.3%、中学生13.8%でした。

市内には、家族の世話をしている子どもが一定数いるという結果から、「ヤングケアラー」への理解が深まるよう今年7月に市内小中学校にチラシを配布し、周知を図りました。その後11月に、より正確な小中学生の生活実態把握を目的としたアンケート調査を実施、その際、表面化しにくいヤングケアラー（疑いを含む）の実態把握も目的として記名欄を設けて調査を行いました。

### 2 調査対象

市内に所在する小学校の5年生、6年生及び中学生。対象数は小学生1,688人、中学生2,640人（令和7年5月1日時点調べ）

### 3 調査方法

調査用「LoGoフォーム」（WEB）のQRコードを載せた案内文書を各学校へ児童生徒数分配付し、学校のタブレット端末を活用して回答できるようにしました。回答者であるこどもが調査内容を理解しやすいよう簡易な表現を用い、答え易さとかかる時間にも配慮しました。また、長期間欠席している児童には学校より調査票を届けていただくことで回答を促しました。

### 4 調査期間

令和7年11月17日（月）～令和7年12月12日（金）

### 5 回答数

回答数3,081人

### 6 回答の速報値の掲載

回答全体の集計値を令和7年12月26日に奥州市ホームページ内で公開します。

### 7 調査結果の活用

調査結果は、奥州市教育委員会及び各学校、要保護児童対策地域協議会と共有します。要保護児童対策地域協議会で共有することで、学校（教育機関）のみではなく、家庭福祉に関わる専門機関で個人の秘密を守りながら調査結果を活用します。次年度以降も年1回の調査を継続実施し、記名のあった児童生徒の回答を学校と共有することにより、困り感を抱えたこどもを発見し家庭相談につなげます。また、速報値の公開により市民への周知啓発を図りながら、こどもの抱える家庭福祉の課題を顕在化し、相談体制の整備を行っていきます。

## 8 調査結果の概要

回答者	
対 象	回答割合
小学生	57.1%
中学生	42.9%

あなたの健康状態についておしえてください。	
回答（選択肢）	回答割合
たいへんよい	44.9%
ややよい	21.9%
ふつう	27.9%
あまりよくない	4.7%
よくない	0.6%

自分のために使える時間（遊ぶ、勉強する、部活動に参加するなど）はじゅうぶんにあると感じますか	
回答（選択肢）	回答割合
時間がじゅうぶんにある	65.6%
時間がすこしある	22.5%
どちらともいえない	7.3%
時間があまりない	3.9%
時間がまったくない	0.7%

自分の学習の成績を上げるため、または受験のため、塾などの学校以外の場所へ勉強をしに行きたいと思いますか？	
回答（選択肢）	回答割合
すでに塾へ通っている	18.8%
これから行きたい	6.7%
お金がかからないなら行きたい	11.5%
時間があれば行きたい	12.6%
家や学校の近くにあるなら行きたい	5.4%
家の手伝いがないなら行きたい	0.4%
親に行けと言われたら行く	17.4%
行きたくない	27.2%

現在、悩んだり困ったりしていることはありますか？

たとえば 家族のこと、友達関係のこと、勉強のこと、学校のこと（遅刻、早退、欠席など）、将来のこと、生活のこと（食事や睡眠）、お金のこと など自分の学習の成績を上げるため、または受験のため、塾などの学校以外の場所へ勉強をしに行きたいと思いませんか？

回答（選択肢）	回答割合
たくさんある	7.0%
すこしある	27.7%
どちらともいえない	12.4%
あまりない	25.5%
まったくない	27.4%

食事が食べられなくなったり、眠れなかったり、逃げ出したいと思うことはありますか？

回答（選択肢）	回答割合
おいにある	3.1%
すこしある	13.1%
どちらともいえない	9.4%
あまりない	21.8%
まったくない	52.6%

あなたは、家族（父や母、高齢の家族、兄弟・姉妹など）のお世話や、家の用事などをしていますか？ （注意・ペットは含めないでください）

回答（選択肢）	回答割合
毎日している	18.8%
ときどきしている	36.1%
どちらともいえない	10.7%
あまりしていない	17.2%
まったくしていない	17.2%

家族のお世話や、家の用事のために、自分のやりたいこと（遊びや勉強、部活など）ができないと覚るこゝがありますか？

回答（選択肢）	回答割合
自分のやりたいことはできる	70.4%
自分のやりたいことはすこしできる	14.5%
どちらともいえない	10.6%
自分のやりたいことがあまりできない	2.7%
自分のやりたいことがまったくできない	1.8%

家族のお世話や、家の用事などを一緒にやったり、手伝ってくれたりする人はいますか？	
回答（選択肢）	回答割合
いる	88.2%
いない	11.8%

家族のお世話や、家の用事などを誰かに手伝ってもらいたいと思いますか？	
回答（選択肢）	回答割合
とてもそう思う	9.5%
すこしそう思う	16.2%
どちらともいえない	24.3%
あまり思わない	22.5%
まったく思わない	27.5%

あなたの周りに、あなたの気持ちを理解してくれる人や相談できる人はいますか？	
回答（選択肢）	回答割合
いる	89.4%
いない	10.6%

その人に相談したことはありますか？	
回答（選択肢）	回答割合
ある	55.3%
ない	44.7%

### ＜回答数の分布＞

- ・回答数の分布は均等であり、小中学校の大きな偏りは見られません。

### ＜健康状態＞

- ・多くの回答者が「たいへんよい」（44.9%）、または「ややよい」（21.9%）と答えています。
- 一方で、「あまりよくない」（4.7%）、「よくない」（0.6%）と答えた生徒も少数ですが存在します。健康状態が特に良くない生徒に対するサポートが必要です。

### ＜自分のために使える時間＞

- ・大多数の生徒が「時間がじゅうぶんにある」（65.6%）、または「時間がすこしある」（22.5%）と感じています。
- ・「時間があまりない」または「まったくない」と答えた生徒は、それぞれ 3.9%と 0.6%です。これら

の生徒への時間管理や支援の必要性が示されています。

### ＜勉強に関して＞

- ・「すでに塾へ通っている」生徒が 18.8%であり、「行きたくない」と答えた生徒が 27.2%です。  
「親から言われれば行く」という消極的な回答が 17.4%です。

### ＜悩みや困りごと＞

- ・「あまりない」(25.5%)、「まったくない」(27.4%)と答えた生徒が過半数を占める一方で、「たくさんある」(7.0%)、「すこしある」(27.7%)と何らかの悩みを持っている生徒も多数います。このことから、日常生活におけるストレスや問題を解決するためのカウンセリング、サポート体制の強化などが必要です。

### ＜食事や睡眠に関する問題＞

- ・食事が食べられなくなったり、眠れなかったり、逃げ出したいと思うことが「おおいにある」ある生徒は 3.1%、「少しある」生徒は 13.1%との回答から、支援が必要な生徒が一定数いることが分かります。この点については、家庭生活の改善や適切な支援体制の整備が必要です。

### ＜家族のお世話や家の用事について＞

- ・「毎日している」(18.8%)、「ときどきしている」(36.1%)と積極的に家事を手伝っている生徒も目立ちますが、半数近くが「あまりしていない」(17.2%)、「まったくしていない」(17.2%)と回答しています。

### ＜自分のやりたいことの妨げ＞

- ・約 70.4%が「自分のやりたいことはできる」と答えていますが、「自分のやりたいことがあまりできない」(2.7%)「自分のやりたいことがまったくできない」(1.8%)と答えている生徒も少なくありません。これらの生徒に対するサポートの強化も必要です。

### ＜周囲との関係＞

- ・大多数の生徒が、「家族のお世話や、家の用事などを一緒にやったり、手伝ってくれたりする人はいる」(88.2%)と答えています。その一方では、サポートがない 11.8%の生徒に対して、学校や地域福祉による支援が必要です。
- ・「あなたの周りに、あなたの気持ちを理解してくれる人や相談できる人はいますか？」という問いに対しても、89.4%が「いる」と答え、周囲に支えられていることがうかがえます。その一方で、約 10.6%の相談相手がいない生徒への対応が必要です。

### ＜まとめ＞

- ・全体的に見て、生活に対して肯定的な回答が多い中で、一部の生徒は健康状態や悩み、勉強に対する不安を感じていることが分かります。

- ・家庭内での手伝いや時間に関しても、一定の役割を果たしながらも自分のやりたいことに時間を費やせていると感じている生徒が多いです。
- ・周囲に相談できる人がいるのは心強い要素で、多くの生徒が支えを感じていると言えます。
- ・その一方で、ヤングケアラーに対する理解と支援が急務であり、今後も調査とサポート体制の強化が必要です。また、子どもたちの多様な意見や感情を尊重し、政策やプログラムに反映させることも重要です。